



| | |
|--------------|---|
| Title | 形容詞lovelyの正体 |
| Author(s) | 上野, 義和 |
| Citation | 大阪外大英米研究. 1992, 18, p. 23-36 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/99151 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

形容詞 *lovely* の正体

上 野 義 和

－ § 1 －

lovely は名詞としても形容詞としても使われる。名詞としては、口語表現として ‘a beautiful woman’ の意味で、たとえば ‘Come here, my lovely!’ のように、常に ‘my lovely’ の形で現れる (*LDCE*)¹。この用法における *lovely* は意味が明確 (= a beautiful woman) である。つまり、美醜の判断規準が個人によって異なろうとも、その中核義である ‘beautiful’ が、単に「視覚に訴えたもの」であるという点で、「明確」といえるのである。ところが、*lovely* が形容詞として使われると、話が違ってくる。
まず

- (イ) 「視覚 (= 外面)」に訴える意味をもつ、としばしば言われていること、

例 a lovely face (美しい顔)

に加えて

- (ロ) 「心情 (= 内面)」に訴える意味をもつこと、

例 to have a lovely time (大変楽しい時を過ごす)

さらには

- (ハ) 「視覚」、「心情」のいずれに訴えているのかが容易に判別しにくく思えることがあること。たとえば、‘a lovely woman’ は

上 野 義 和

(1)外面的に美しい女性 (=美人) (2)内面的に美しい女性 (=性格がすてきな女性) のどちらをさすのか、ということ。

そして

- (ニ) 上記 (ロ)、(ハ) にも関係することだが、ことえば ‘a lovely day’, ‘a lovely meal’ という時、一体「何が」 lovely であるのかが、修飾する名詞が指し示すものに応じて異なること、
(ホ) 修飾する名詞を伴わずに、感嘆詞的に “Lovely!” という時、上記 (イ) ~ (ニ) とどのようなつながりがあるのか

等々、形容詞の *lovely* は、意味的に非常に複雑な性格を持った語とされている。もちろん、このことは英語の他の感情、情緒語 (*attractive*, *nice*, *splendid* 等) や日本語の同種の語 (すばらしい、すてき (な) 等) にもあてはまることだろうけれども、*lovely* は *attractive*, *nice*, *splendid* 等よりも意味あいが複雑であり、従って、それだけ捉えにくい「漠然さ (cf. Perrin, p. 565)」を持っているようである。この漠然さを取り除き、この語のもつ意味を明確にすることが本稿の目的である。

— § 2 —

何故だかわからないが、イギリス (イングランド地方の) 人は、アメリカ人よりも、はるかにこの語を好んで使う。乱用ではないかと思えるほど、連発する人もいるぐらいである²。この語は、よく、女性の濫用語といわれる (井上、p. 698) が、イングランドにおいては、少し事情が違うように思える。男女の性別に関係なく、頻繁に使用されていると考えてよいだろう。以下で行う *lovely* の意味分析は、イングランド地方に住んでいる約30名の informant を対象としたものである。

英々辞典はこの語をどう定義しているのかを調べてみることにする。この語の歴史は古く、たとえば *OED* には次のように記載されている (二重かっ

形容詞 *lovely* の正体

こ内は筆者による注釈)。

† 1. Loving, kind, affectionate. *Obs.*

((初出例は約1000年、最終例は1602年のもの。「人に対して愛情深い」の意で、たとえば ‘a lovely son (親思いの息子)’))

† b. Amorous. *Obs.*

((初出例は 1470-85年、最終例は1599年、「なまめかしい、多情な」の意。 ‘a lovely look (色っぽい目つき)’))

† c. Friendly, amicable. *Obs.*

((初出例は1409年、最終例は17世紀前半、 ‘lovely advice (親切な助言)’))

2. Lovable; worthy of love; suited to attract love. *Obs.*

((初出例は約1000年、最終例は1846年。 ‘lovely qualities (愛すべき性格)’))

3. Lovable or attractive on account of beauty; beautiful. Now with emotional sense, as a strong expression of admiring or delighted feeling: Exquisitely beautiful.

a. with reference to beauty of person.

((初出例は約1300年))

b. said of inanimate things.

((初出例は14世紀))

c. with reference to moral or spiritual beauty. (See also sense 2.)

((初出例は1805年))

4. Used as a term expressive of enthusiastic laudation: Delightful, highly excellent. *colloq.*

((初出例は1614年))

上記の初出例の年代から判断すると、*lovely* の原義は、1000年頃から使われ

上 野 義 和

だした ‘loving, kind, affectionate (愛情深い)’ と ‘lovable, worthy of love, suited to attract love (愛すべき)’ の二つ (または、いずれか一方) であると思われるが、これらは、いずれも今日では廃用に帰し³、派生的意味と考えられる ‘amorous’ と ‘friendly, amicable’ も同様の運命をたどっている。従って上記の定義のうち、3 と口語用法の 4 のみが今なお残存し、そしてこの事実は以下の LDCE の記載とぴったり一致している。

1 beautiful, attractive, etc., esp. to both the heart and the eye

2 *infml* very pleasant: *a lovely meal*

USAGE ... Lovely is a strong word of praise for anything beautiful or nice: *a lovely woman/dinner/day*.

つまり OED の 3. a, b, c と 4 がそれぞれ LDCE の 1 と 2 に相当するわけである。そして、前者の 4 と後者の USAGE にあるように、この語は「強い称賛」を含意している。

他方、英和辞典では *lovely* はどう定義されているのだろうか。二つの代表的な大辞典をみてみることにする。

adj. 1 (花・星・風景・絵などが) うっとりするほど美しい, 言うに言われぬほど美しい (charmingly or exquisitely beautiful): — *a lovely flower* とてもきれいな花. — *lovely town* 美しい町.

2 (人・顔などが) 美しく心ひかれる, ほれぼれするような, かわいらしい: — *his lovely daughters* 彼のかわいらしい娘たち. — *a lovely face* かわいい顔. — *a lovely neck* 美しい首筋.

3 ((話)) 愉快的な, 楽しい (delightful), とても気持のよい, すばらしい, すてきな (highly pleasing): — *a lovely party* 楽しい会. — *a lovely taste* すばらしくおいしい味. — *have a lovely*

形容詞 *lovely* の正体

time とても楽しい時を過ごす。 — *Good morning, isn't it lovely?*
おはようございます, いいお天気ですねえ。

4 (道徳的・精神的に) 美しい, りっぱな, 高貴な (*gracious*) : *She is endowed with a lovely character.* 生れつきりっぱな性格である。
(*SRHEJD* より)

adj. I 美しい, うるわしい, かわいらしい, 甘美な (*beautiful, charming*) : *a ~ flower, woman, melody, &c.*

2 ((口語)) すばらしい (*delightful, pleasant*) : *a ~ taste* すばらしくいい味/ *have a perfectly ~ time* とても楽しい時を過ごす。

3 (精神的に) りっぱな, 純潔な (*noble, pure*) *a ~ character* りっぱな人格
(*KNEJD* より)

SRHEJD は4項目に、*KNEJD* は3項目に分類してはいるものの、前者の1, 2は後者のIを2つに分けただけのことであって、結局は同じことを述べているにすぎない。他の英和辞典も同工異曲といってさしつかえないようである。しかしながら、*SRHEJD* では「花・星・風景・絵など」、「人・顔など」と付記して、分類の基準にしていることは、大変示唆的であるように思われる。つまり、前者は「無生物」を指し、後者は「生物または人間、とその体の一部」を指している、という点で示唆的なのである。その理由は後述する。

— § 3 —

< 実例 1 >

筆者がイングランドに滞在していた1990年の春、親類の男子大学生が約1ヶ月間、筆者の借家に滞在することになった。着いた翌日、生きた英語の勉強のためという名目で、早速近くのスーパーマーケットに買物に行ってもらった。待つこと約1時間、帰ってきた彼の顔を見ると妙ににこにこしている。

上 野 義 和

理由を尋ねると、レジのおばさんに「可愛い」と言われたからだと言う。どういう英語で言われたの、と尋ねると、相手が彼の顔を見ながらにっこりはえんで“Lovely!”と言ったからという答えが返ってきた。これで納得がいった。が、彼の意味解釈がまちがっていることは明白である。第一、見ず知らずの初対面の、しかも男性に、女性が「可愛い」などと言うはずがない、ということからも明らかだろう。しかしながら、このようなことは英語を非母国語とする日本人にとっては、きわめて致し方のないことかもしれない。何故なら、上記のいずれの辞典の定義も *lovely* の正しい「外延的意味 (denotative meaning)」を述べてはいるものの、それに伴う「語用論的な内包的意味 (connotative meaning)」については何も教えてくれているからである。

その学生に詳しくスーパーマーケットでの件の話をさせると、次のような状況であることがわかった。£9.95を請求され£10札をとり出して渡すと、レジ係のおばさんは即座に5ペンスの釣銭を渡しながら“Lovely!”と言ったのである。即座に、ということは、彼女は前もって5ペンスを釣銭として渡すべく用意していたということになる。つまり、彼は彼女の思い通り、期待通りに行動したことが原因で、その結果彼女は喜び、はえんだのである。このように、原因・理由となるものを内包的意味と見なし、以上のことを要約すると次のようになる。

相手が話し手の期待通りの行動をとる－内包的意味（理由・原因）



従って、そのことは話し手にとって

very pleasant－外延的意味（結果）（辞書記載の意味）



“Lovely!”－発話

はえみ－発話に伴う表情

形容詞 *lovely* の正体

このように、何故、という「理由、原因」が「内包的意味」として引き金になり、「結果」として「外延の意味（＝辞書記載の意味）」が出てくるということを理解することが、*lovely* という語の意味を正しく把握するための最も大切な要素になると考えられる。

＜実例 2＞

借家に落ちついた翌日、隣家に挨拶に出かけた。自己紹介をしてギフトを手渡すと、家主から話は聞いていた、と言われ、家に招き入れられた。雑談中に御主人が帰宅し、奥さんが事情を説明しギフトのことを話すと、にっこりして“Lovely!”と言った。その時点ではギフトの包みは開けられていず、中味が何かは話し手にはわかっていない。従って、この *lovely* の内包的意味は＜実例 1＞のそれとは違う。結論を述べれば

(ギフトをもらうという) 良いことが起った－内包的意味



従って、このことは話し手にとって very pleasant－外延の意味



“Lovely!”－発話

ほゝえみ－発話に伴う表情

となる。「内包的意味」は異なるものの、他はすべて＜実例 1＞と全く同じである。

＜実例 3＞

かなり日本語ができるイギリス人が筆者の研究室にやってきた。用件は、主語の名詞につける助詞の「は」と「が」の区別が、旧情報、新情報という要素だけでは、無理な場合があるが、どうしたらよいか、ということであっ

た。多くの事例を示しながら説明すること約2時間、ようやく納得した彼は、にっこり笑って、“*Lovely! I think I now understand the difference perfectly.*”と言った。何が *lovely* か、という筆者の問に相手は黙っている。いつも無意識に使っている表現なので、改まって尋ねられると説明しにくい、とのこと。「事を期待通りに運んだからか? (〈事例1〉の内包的意味)」という筆者の問いかけに、答えは“*Could be.*” (だめではないかという不安の方が大きく、期待はそれほどでもなかった、ということ)「良いことが起ったからか?」に対しても“*Could be.*” 結局、たどりついた結論は「もやもやが晴れて知識欲が満たされたこと」と「説得力のある説明に対する称賛」が、その内包的意味であるということであった。つまり、前者と「説得力のある説明」とが彼にとって *very pleasant* であったということになる⁴。

以上の三例からわかるように、状況さえ正確に把握しさえすれば、*lovely* の内包的意味を見つけることは難しいことではない、ということがわかるだろう。蛇足ながらも一つ事例をあげてみる。

〈事例4〉

12月末、ロンドンの Royal Albert Hallでの恒例の Christmas Carol Concertでのこと。ほぼ半ば頃、司会者が会場の子供達に呼びかけて、子供のクリスマスの歌の合唱をするから希望者は舞台に上ってほしい、そして“*The number we wish for is about three dozen.*”と言った。子供達が舞台に上りきると、その数を数えはじめた。“…*thirty, thirty-one, thirty-two, thirty-three, thirty-four, thirty-five. That's all. Lovely!*”いうまでもなく、この場合の内包的意味は〈事例1〉のそれと同じである。

－ § 4 －

以下では、*lovely* が名詞を修飾する場合をとり扱う。事例には限定的用法 (attributive use) の例のみ用いるが、そこから得られる結論は叙述的用法 (predicative use) にも、もちろん、あてはまるものである。

形容詞 *lovely* の正体

I. 人間を指す名詞を修飾する場合

(1) 性別が中立の名詞

lovely people : 性質に言及する。 *lovely*≡kind, friendlyと考えるとよい。

a *lovely baby* : 特に何が、ということではなく、全体的に「可愛い (≡ lovable)」ということの意味する。赤ちゃんは本来、かわいいものだから、どんな赤ちゃんにでも *lovely* が使える。

(2) 女性を指す名詞

a *lovely woman* : 性質に言及する。性格が素敵である、という意味。
顔の美しさに言及することはないことではない (*it could refer to her facial beauty*) けれど、その場合には、顔の美しさをはっきり示す *beautiful* を使う (下記(4)の(注)参照) のが普通。

a *lovely daughter* : *daughter* が *woman* の時は、上に準ずる。*daughter* が *girl* である時は「よい育てられ方をしている (*well brought up*) 」, 「よい言葉遣いをする (*nicely spoken*) 」, 「礼儀正しい (*well-mannered*) 」等を含意する⁵。

(3) 男性を指す名詞

a *lovely man* : 上記(2)の *woman* の場合に準ずる。

(4) 人間の体の一部を指す名詞

a *lovely face* : (a)対象が若い女性の場合—顔の美しさに言及することはないことではない (*it could connote a facial beauty*) が、顔全体が「すばらしい輝きをもっている」時、具体的に言えば「顔のつやがよい、笑みを絶やさない、えくぼがある、表情が優しい」等が混り合っていることを意味する。(b)対象が年輩者の場合、顔の美しさに言及することは絶対にない。つまり、しわのある顔を *lovely* とはいわない。従って *She is old but has a lovely face.* という時、*a lovely face*≡*a kind face* という公式が成り立つようである。

a *lovely neck* : ほどよく長く (*moderately long but not too long*) ,

上 野 義 和

優美な (graceful) 首を指す。ただし、この表現は女性に限られ、男性には使わない。

lovely hand(s) : ピアニストの手のように、ほっそり (*slender*) して、優美な (*graceful*) 手をさす。 *hand(s)* が *finger(s)* に代っても同じ。

lovely hair : 濃い (*thick*) , 光沢のある (*lustrous*) , 元気のある (*healthy*) 髪を指す。ただし、非常に長い (*very long*) , 手ざわりがすべすべした (*waxy*) , 美しい色 (*beautiful colour*—例えば *black, dark brown, red* 等) の場合には *lovely hair* といわず、*beautiful hair* という (ただし、いくら美しい色でも *mixed up* したものはだめ)。

lovely ears : かわいらしい (*pretty*) 形の耳に用いる。子供の耳はよいが、大人の耳には使わない。

lovely eyes : 大きく (*big*) , 柔和で (*soft*) , 夢見るような (*dreamy*) 目を指す。後者の二つのうち、どちらかが欠けてもよいが、小さな目には絶対使えない。

以上のような体の一部が、付記された条件を備えていれば *lovely* は使えるが、このような条件を備えられない体の一部の場合には、当然 *lovely* は共起しない。* *lovely legs*, * *lovely arms*

(注) 顔の美しさに言及する時

上記(1), (2), (4a) では ((3)の男性の場合を除くことに注意) 、*lovely* でも美顔を表わせないことはないが、その場合は、より意味が明確な *lovely-looking* を使う方がはるかに普通。 *lovely-looking people*, *a lovely-looking baby* (woman, daughter, face)。ただし、この複合語を使わずに、女性には *beautiful* (まれに男性にも)、小さい子供には *pretty* を使いわけることもある。ただし

* *a lovely-looking man*

形容詞 *lovely* の正体

のように、男性の大人には使えない。

II. 無生物で具体物を指す名詞を修飾する場合

- a *lovely* room (house) : 美しさよりも、「家具、調度品等がきっちり配置され (well-organised), きれいである (clean)」等を意味する。
- a *lovely* garden : 色々な花が咲き、手入れが行きとどいている庭をさす。
- a *lovely* meal : おいしい (delicious) 食事のこと。ただし、* *lovely* food とはいえない。food 自体には、上述の意味あいが付着しにくいから⁶。
- a *lovely* sunset : 大きな太陽、夕日に染まる赤い海などがイメージされ、それが発話者を please させる。
(注) a *beautiful* sunset : *beautiful* は意味的には *lovely* の superlative と考えられる。イギリス人がイギリスで見る sunset は *lovely* であるが、例えば、太平洋上で同じ夕日を見ると *beautiful* になる。*beautiful* の方が「広大さ」を示す (次例参照)。
- a *lovely* watch : 普通の時計には用いない。ダイヤモンドをちりばめたり、仕あげのすばらしい時計には用いることができる。この場合の *lovely* は「小さくて、かわいい (pretty : 上記 (注) 参照)」と「価値がある (valuable)」を示唆する。普通の時計のみならず、単に機能性だけがすぐれているもの (電気ポット、アイロン、鍋など) は *lovely* とは無縁であることは言うまでもない。

III. 無生物で抽象物を指す名詞を修飾する場合

- a *lovely* day : (a) 天気がよく (good weather — ただし、雨さえ降らなければ曇天でもよい)、ひどい寒さではない (b) (色々) 楽しいことがある (= 楽しい時間を過ごす) の二つが主要な「内包的

上 野 義 和

意味」である。しかし、(a), (b)のどちらか欠けても a *lovely* day といえるが、もっと具体的に “The weather wasn't good but we had a *nice* day.” と、*nice* を使って言うことがある。*nice* は、日本人が抱くイメージと違って、‘not terribly enthusiastic (少しさめたほめことば)’ であるから、上記の例文の文脈に合っている。

a *lovely* picnic : (a)天候がよい(前例と同じ条件) (b)目的地で楽しい時をすごす (c)食事がおいしい等を示唆する。通例、優先順位は、天候、食事、楽しい時間となり、従って天候が悪ければ a *lovely* picnic とはいえない。もちろん、この順位は人によって異なる。何が picnic にとって一番大切な要素か、ということがポイントになる。従って、子供の場合には、(c)の食事が最優先されることが多く、雨天で、かつ、楽しく遊べなくても、食事さえおいしかったら a *lovely* picnic と言えるということになる。

— § 6 —

lovely には特殊な用法が一つある。次の

lovely and warm

の *lovely and* がそれで、*nice and* (= *nicely, comfortably*) と同じ意味をもつイギリス語法である。しかし、アメリカ英語の急激な流入により、イギリスではどちらの表現もよく使われている。

— § 7 —

以上、イングランドにおける *lovely* の「内包的意味」を概観したが、要約すると次のようになる。

(A) *lovely* は「視覚的な美しさ」を意味しえないこともないが、それ以上に「精神的、感情的」に訴える語である。

形容詞 *lovely* の正体

- (B) 辞典に記載されている意味は、あくまでも「外延の意味」であり、その背後には、状況によって異なるさまざまな「内包の意味」がある。
- (C) 30人の informant による上記の結果から判断する限りでは、引用した英和辞典の用例の和訳 (a lovely face 美しい/かわいい顔、his lovely daughters 彼のかわいい娘たち、など) は misleading のように思われる可能性がある。たしかに、主観的意味の強い語、感情を表わす語の意味記述は大変難しいことではあるけれども、だからこそ、その種の語の取り扱いにはより細心の注意が必要とされる。

<注>

1. *SRHEJD* は次のような意味も載せている。((話)) 1 美女, 美人 (特にショール・モデルなど) (pretty woman) : -stage lovelies 舞台の美女たち. 2 美しいもの (lovely object) .
2. informant 達によれば、若者の中には単なる口ぐせとして、全く無意味に乱発するものが増えているそうである。この語の内包の意味が複雑多岐にわたることがその原因であるのかもしれない。
3. 後述するように、イングランドでは今日でもこの意味は生き残っているようである。また、Horwill (p. 195) に興味ある記載がある - 1883年ボストンに滞在中の Matthew Arnoldの手紙に - アメリカでは *lovely* が人間を指す名詞と共起すると (例 a lovely woman) , その意味は、美人 (a sweetly beautiful woman) ではなく、*lovely* イコール lovable となり、イギリスでいう a “very nice” woman を意味するようだ、と書かれている - *OED* にある通り (Cf. 2. 最終例1846年) 、すでに当時は廃用になっていたのだろうか。
4. 実例 1, 2, 3 とも ‘very pleasant’ という点では皆、同じだが、ここで大切なのは「何故」そうなのか、ということ。
5. たとえば、40才の娘さんと10才の娘さんとは、発話者が目をつける内面的な要素の種類が異なるということ。
6. *lovely* (<love+ly) には多少なりとも ‘love (愛)’ の意味が感じられるよう

上 野 義 和

である。この場合は特にその感が強く、meal には「愛、あたたかさ」があるが、単にその材料にしかすぎない食料品にはそのようなものは全く感じられないということ。

<Acknowledgements>

In the writing of this paper, about 30 informants in Essex, England, supplied me with much useful and helpful information, orally when I stayed there from August 1989 to June 1990 and by letter after I came back to Japan. I cannot list them all, but am grateful to all of them. I would particularly like to thank Mrs Joy Bunyan (Leavenheath, Essex). Of course, they are not to be blamed for any shortcomings of this paper.

<参考文献>

- Horwill, H. W. (1958) *A Dictionary of Modern American Usage*, Maruzen Co., Ltd., Tokyo.
- Inoue, Y. (1972) *A Dictionary of English and American Usage*, Kaitakusha, Tokyo.
- Iwasaki, T. et al. (ed) (1960) *Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary*, Kenkyusha, Tokyo. (abbrev. KNEJD)
- Longman Dictionary of Contemporary English* (1978), Longman Group Ltd., Harlow and London. (abbrev. LDCE)
- OED*
- Perrin, P. G. (1965) *Writer's Guide and Index to English*, Scott, Foresman and Company, USA.
- Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary* (1973), Shogakukan, Japan. (abbrev. SRHEJD)